

第2回 上越市総合計画審議会 次第

日 時 令和4年5月31日(火)

午後1時30分から

会 場 上越市役所第一庁舎 401 会議室

1 開会

2 報告

(1) 第7次総合計画策定に向けた検討フロー

資料No.1

(2) 上越市の人口動態

資料No.2

3 議事

(1) まちづくりに込める思い

資料No.3

参考資料 1、2、3、4

(2) 将来都市像(案)

資料No.4

4 その他

5 閉会

第7次総合計画策定に向けた検討フロー

現状とこれからのまちづくりの考察

第7次総合計画

◇ 現状・課題など【第1回審議会で説明・議論】

人口減少の進行・影響

資料No.2 (前回の補足説明)

- 人口減少とともに少子化・高齢化が進行、今後加速
- 世帯構成が変化 (単身化・核家族化の進展)
- 担い手不足や地域コミュニティ活動の減少 など

社会の潮流

- 人口減少・少子高齢化社会の本格的な到来
- ライフスタイルや価値観の多様化
- 安心・安全に対する意識の高まり
- 地球規模での環境問題の深刻化
- 人生100年時代を見据えた誰もが活躍できる社会
- 経済情勢や産業構造の変化
- 情報通信技術の進展
- 持続可能なまちづくり

第6次総合計画の評価・検証

まちの主要指標の動向

- 人口・世帯、経済、財政の各種指標の最新動向を把握

基本政策・重点戦略の検証

- 行政内部において、政策分野別・重点戦略ごとに、取組の成果や課題を整理

市民の声アンケート

- 市民生活の実態や実感等を把握
- 市民 5,000人 回収数 2,271人

第7次総合計画の策定に向けて

策定の趣旨

- 持続可能なまちづくりを総合的かつ計画的に推進

策定の視点

- 人口減少社会への対応
- 上越ならではの豊かな暮らしの確立
- まちの力・地域の力の向上
- 未来志向のまちづくりの推進

◇ 市民の意見・思い

総合計画審議会 (第1回)

- 各分野の有識者や市民活動団体の代表者など30人で構成
- 全参加委員から意見を聴取

グループインタビュー

参考資料1

- 上越市内でまちづくり活動等を実施している20団体へインタビューを実施
- インタビュー人数：延べ85人

まちづくり市民意見交換会

参考資料2

- 市内4会場で5日間実施
- 参加者数：延べ72人

まちづくりに関する意見募集 (Web)

- 市ホームページ上で広く意見を募集
- 寄せられた意見：延べ65件

ありたい姿

- 行政の立場から、ありたい姿を検討

抽出・整理

魅力や強み・不安や弱み

参考資料3

◇ まちづくりの方向性

まちづくりに込める思い

資料No.3

参考資料4

- 長期的な展望に立ち、目標となる2040年の上越市のありたい姿を描きます。

将来都市像

資料No.4

- ありたい姿の実現に向けた視点を踏まえ、2030年に上越市が目指す将来都市像を示します。

※第3回以降に審議予定

基本政策など

基本計画

上越市の人口動態

上越市 企画政策部 企画政策課

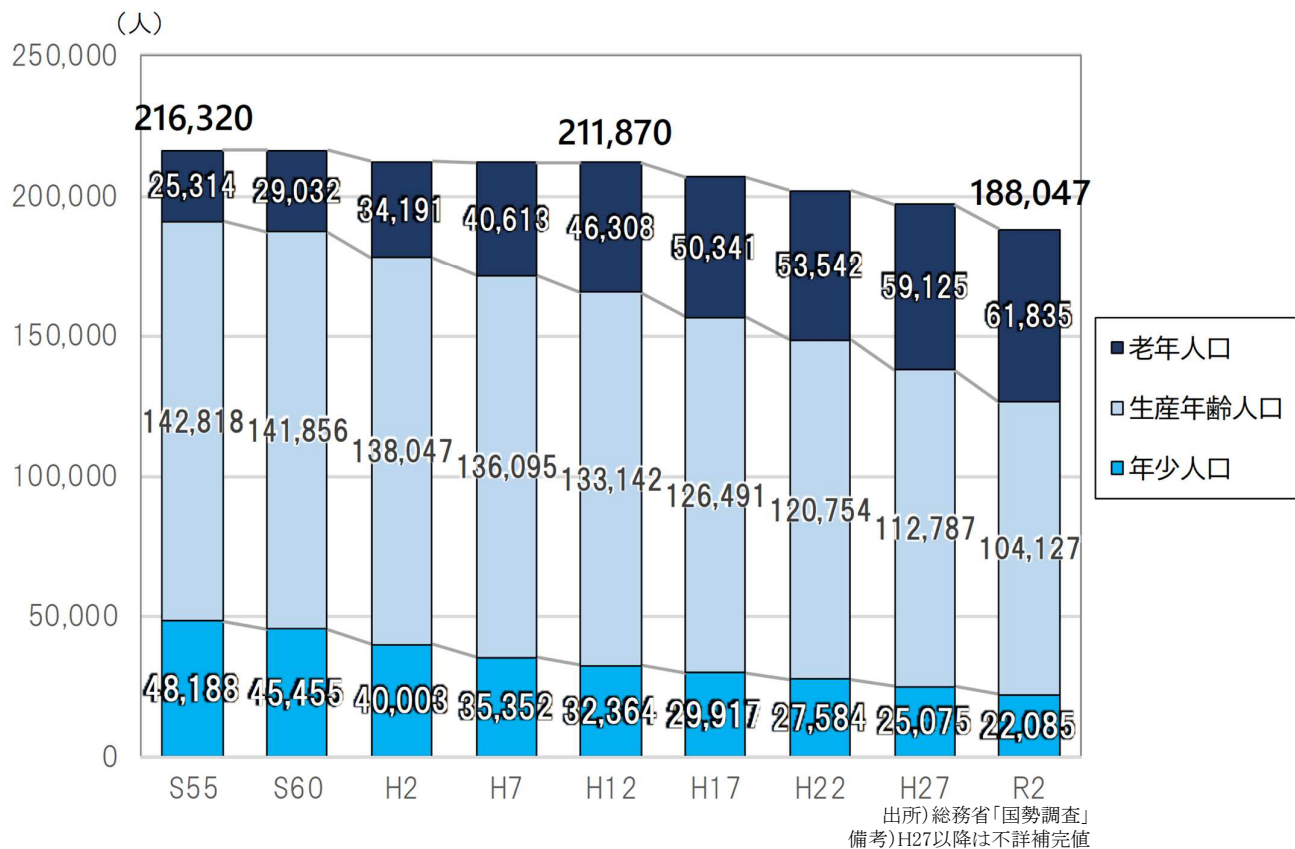
令和4年5月31日

目次

1	これまでの人口の推移	
1-1	上越市の年齢別人口の推移	3
1-2	上越市の年齢構成の推移	3
1-3	上越市の人口動態の推移	4
2	出生	
2-1	合計特殊出生率の推移	6
2-2	上越市の年齢別出生率の推移	6
2-3	年齢別出生率の比較（R2）	7
2-4	上越市の若年女性人口の推移	7
2-5	上越市の婚姻件数の推移	8
2-6	30代後半の独身割合の推移	8
2-7	上越市の30代後半の独身割合の推移	9
3	死亡	
3-1	上越市の年齢別死亡数の推移	11
3-2	上越市の高齢者人口の推移	11
3-3	平均寿命の推移	12
3-4	上越市の死因別死亡数	12
4	転入・転出	
4-1	全国都市圏別の人口増減率の推移	14
4-2	県内自治体の転入超過の状況（H28-R2）	14
4-3	上越市の年齢別社会動態の推移	15
4-4	上越市の性別・年齢別の転入出の動き	15
4-5	上越市の地域別社会動態の推移	16
4-6	上越市の地域別の転入出の動き	16
4-7	東京都からの転入数の増減率（R1→R3）	17
4-8	上越市の理由別社会動態	17
4-9	産業別新規学卒者（大卒）給与額（R2 男性）	18
4-10	産業別新規学卒者（大卒）給与額（R2 女性）	18
4-11	産業別就業者割合（H27 30代以下男性）	19
4-12	産業別就業者割合（H27 30代以下女性）	19

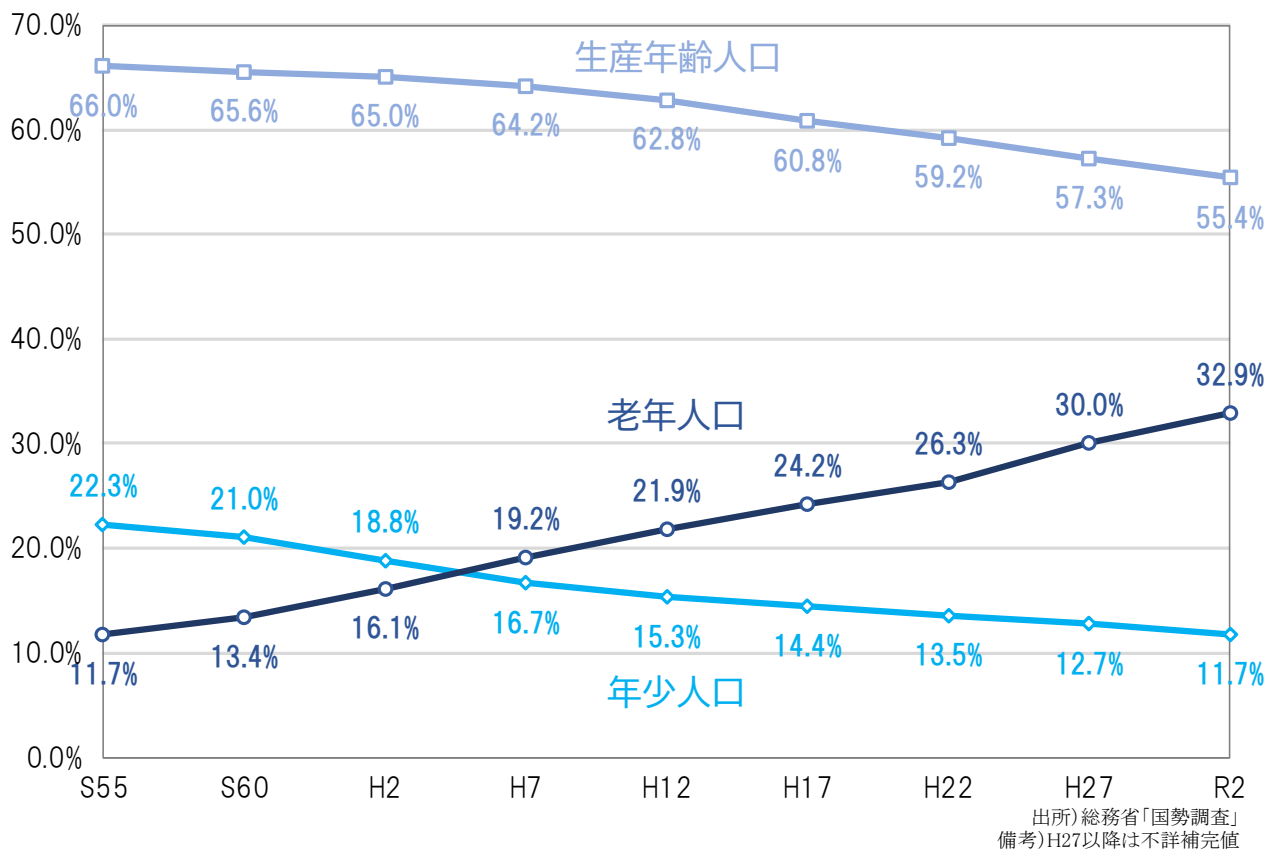
1 これまでの人口の推移

1-1 上越市の年齢別人口の推移

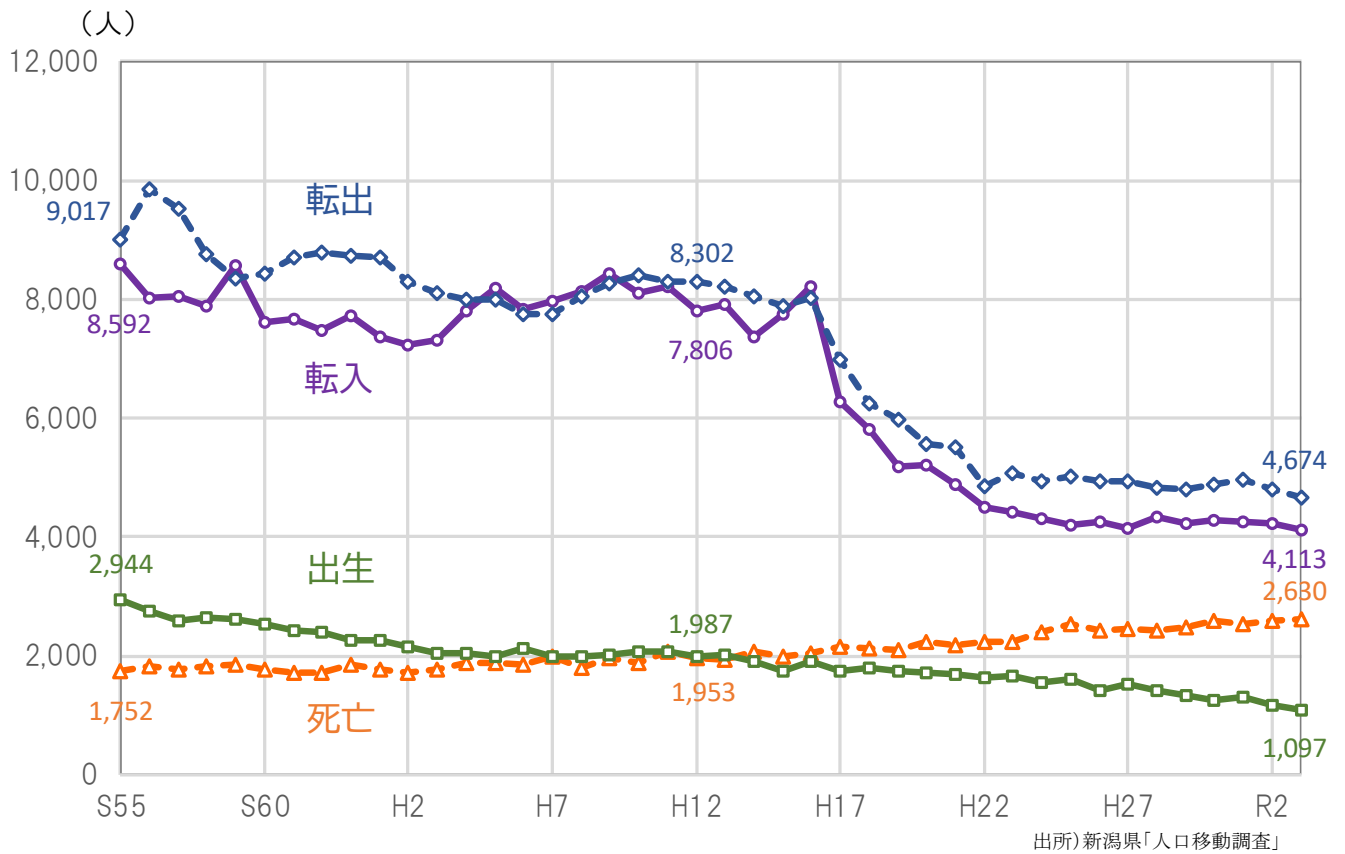


平成12年頃から人口減少が加速(以降20年間で約1割減)
老年人口(65歳以上)が増加する一方、65歳未満は減少

1-2 上越市の年齢構成の推移

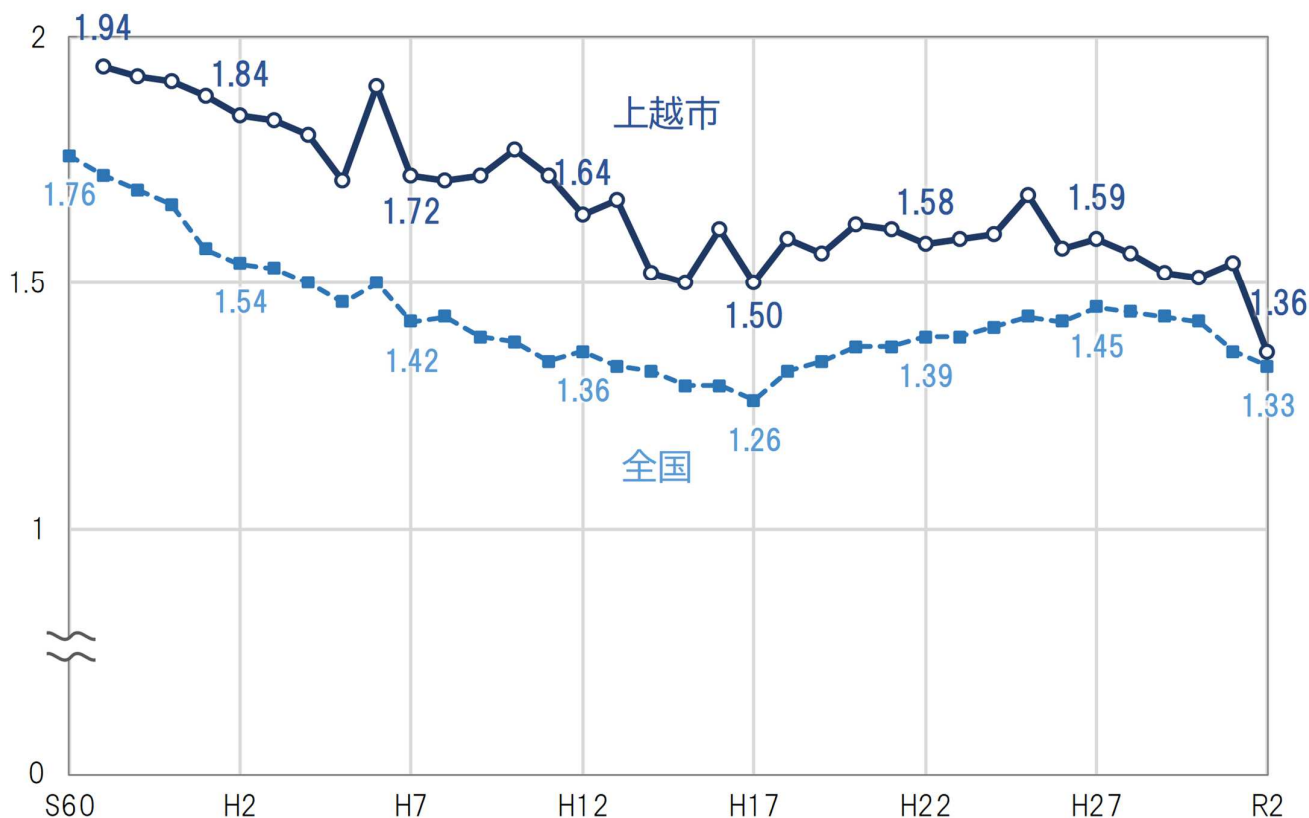


老年人口の割合(高齢化率)はこの間上昇(令和2年時点で1/3が高齢者)
生産年齢人口・年少人口はともに減少が続く



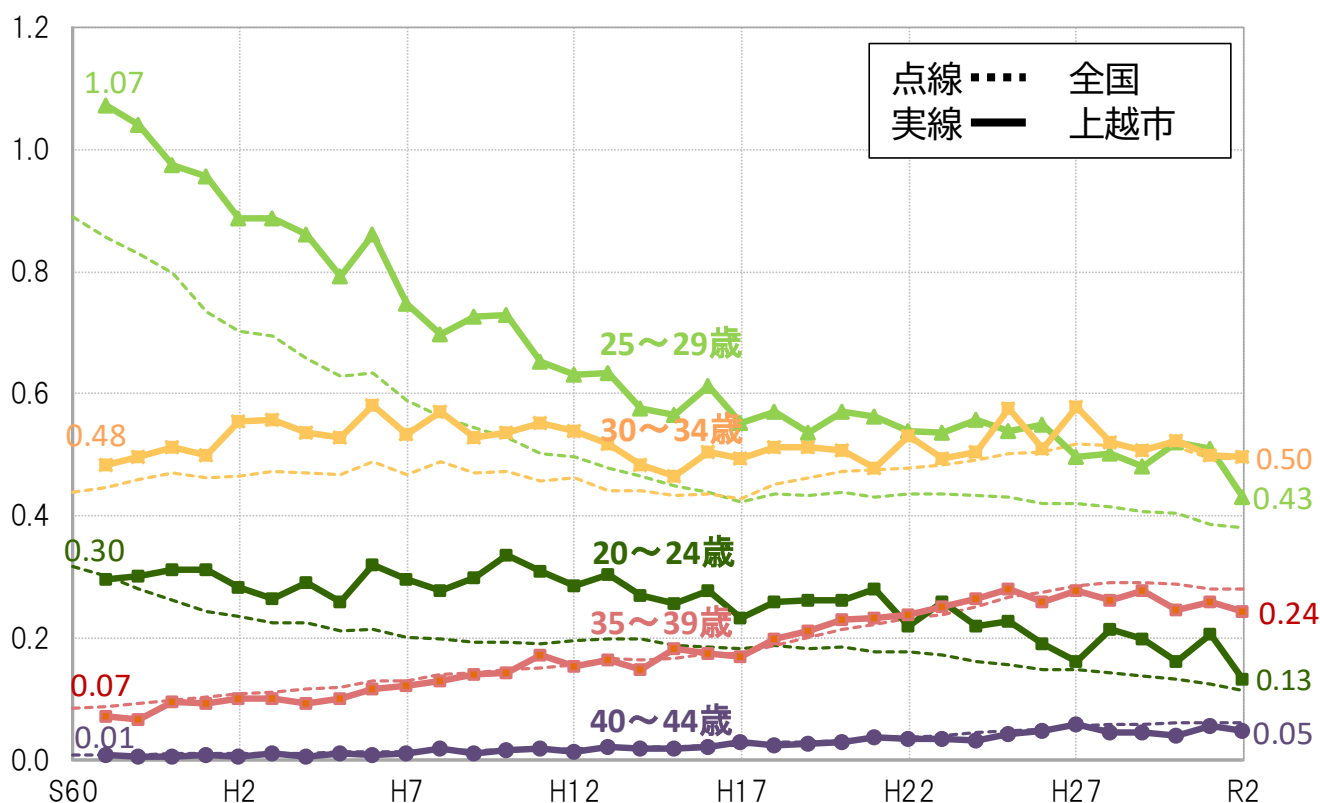
平成13年に死亡が出生を上回り、以降その差は拡大傾向
 転出が転入を上回る状況が継続(一時的な経済状況の変化による例外を除く)

2 出生



出所)厚生労働省「人口動態調査」、新潟県「福祉保健年報」

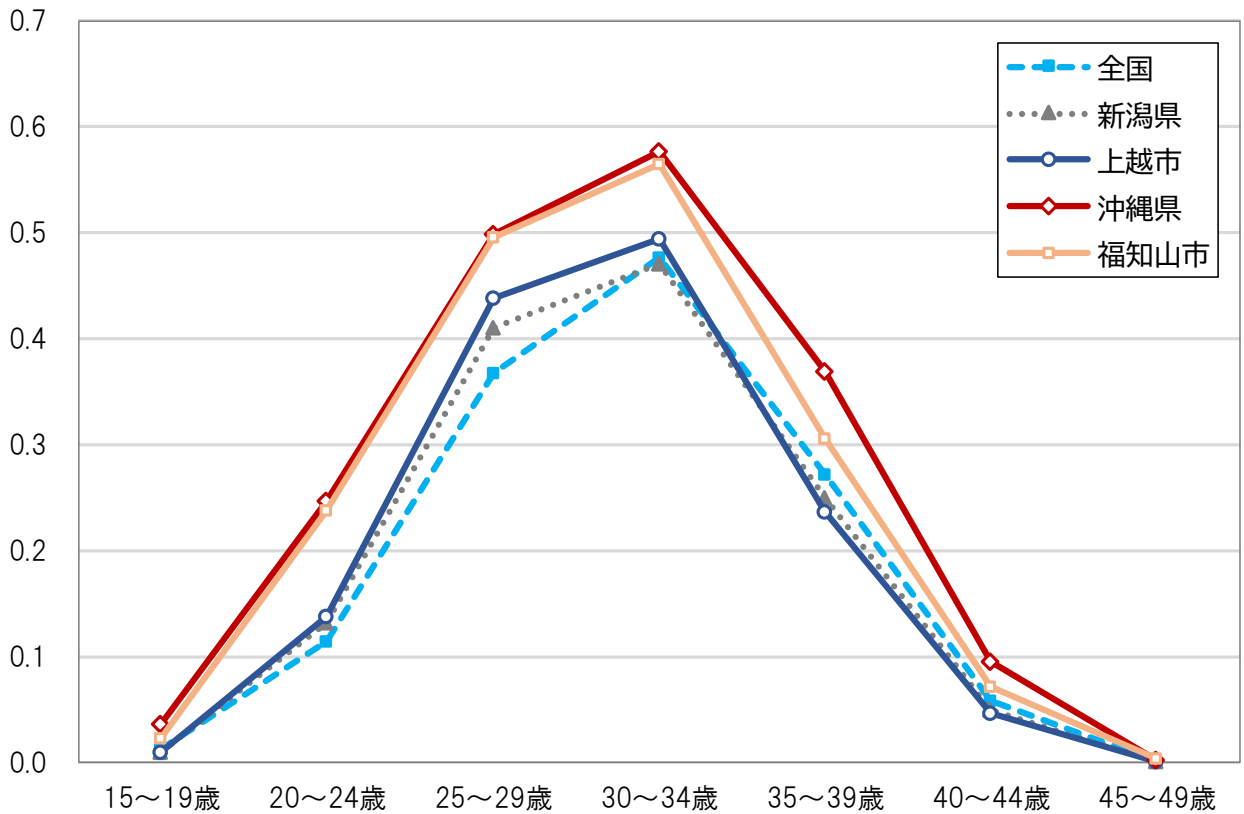
平成12年頃から上越市は横ばいで推移(ただし令和2年は減少)
2.07を下回ると転入出の差がゼロでも長期的には人口減少



出所)厚生労働省「人口動態調査」、新潟県「福祉保健年報」

20代後半の出生率が大きく減少
30代後半の出生率は増加傾向だったが、近年は横ばい

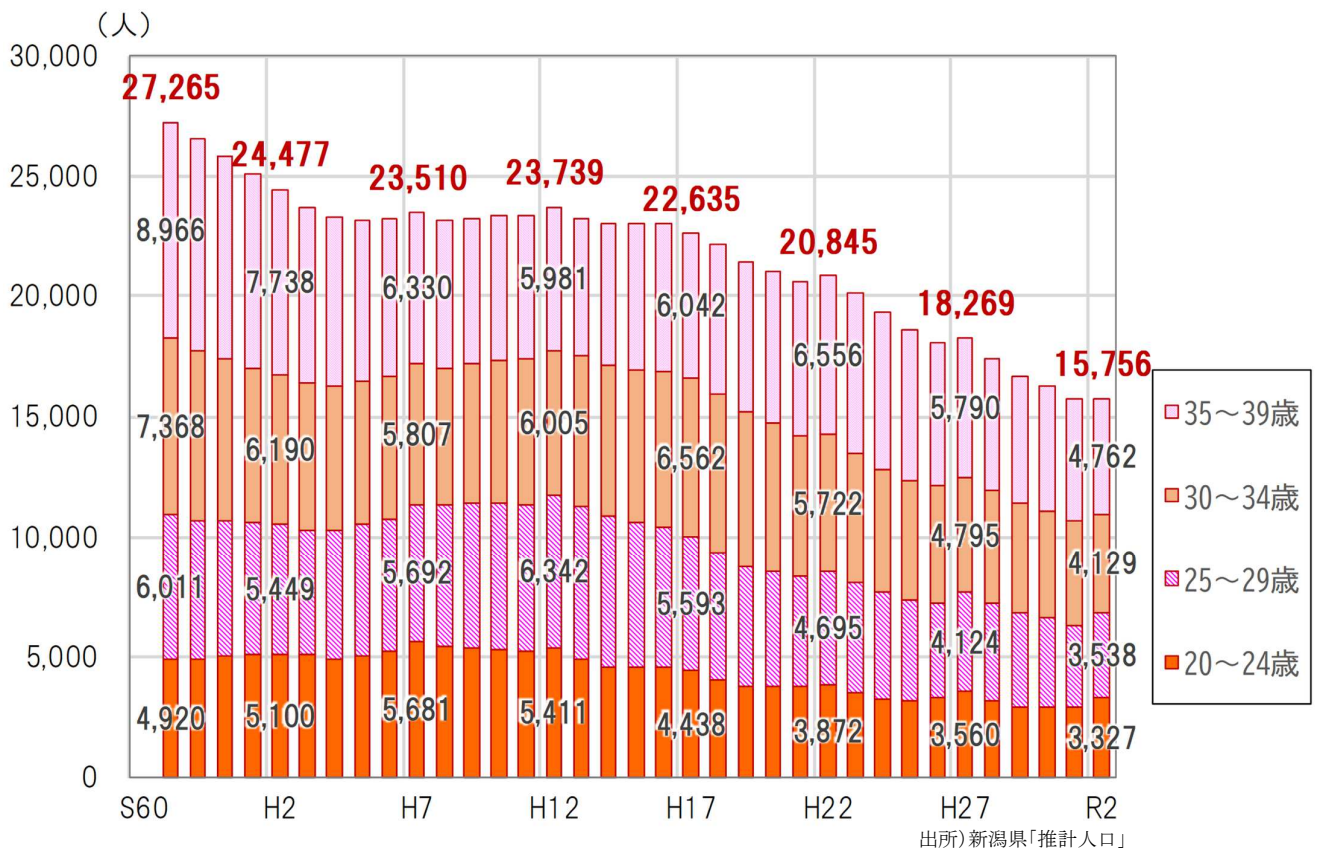
2-3 年齢別出生率の比較(R2)



出所)厚生労働省「人口動態調査」、新潟県「福祉保健年報」

全国に比べると20代後半の出生率がやや高い
出生率が高い地域と比べ、特に20代・30代の出生率が低い

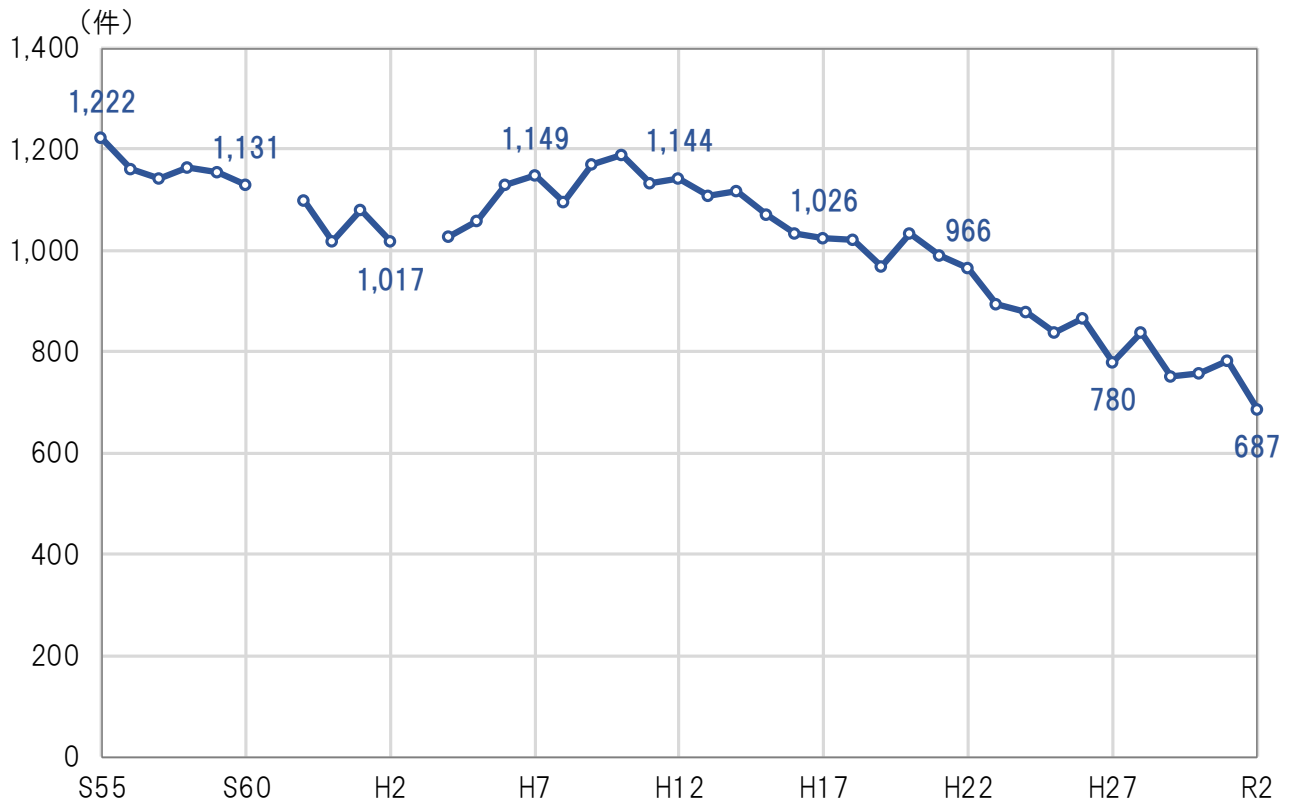
2-4 上越市の若年女性人口の推移



出所)新潟県「推計人口」

20代~30代の女性人口は減少が続く
出生数が減少している要因の一つ

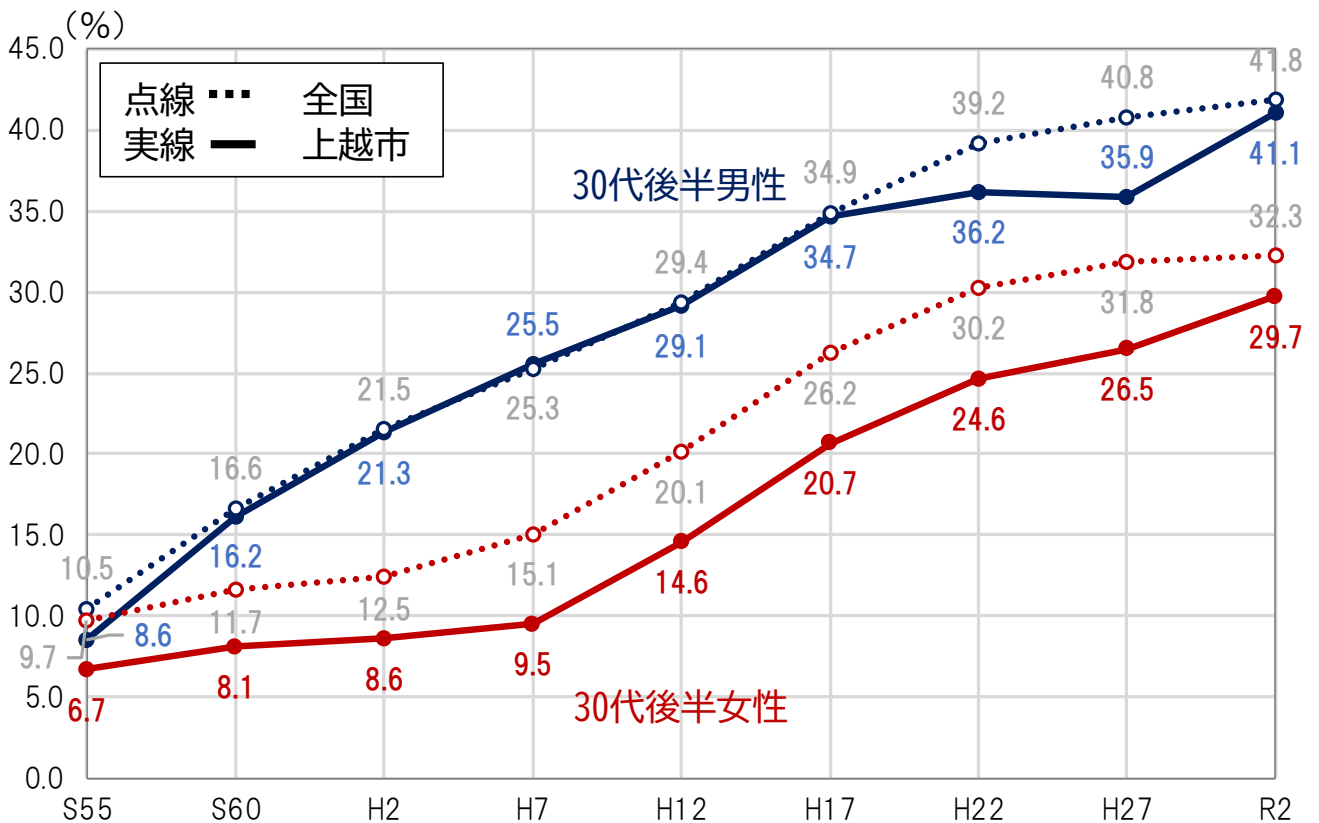
2-5 上越市の婚姻件数の推移



出所)新潟県「福祉保健年報」
備考)昭和61年・平成3年のデータ欠損

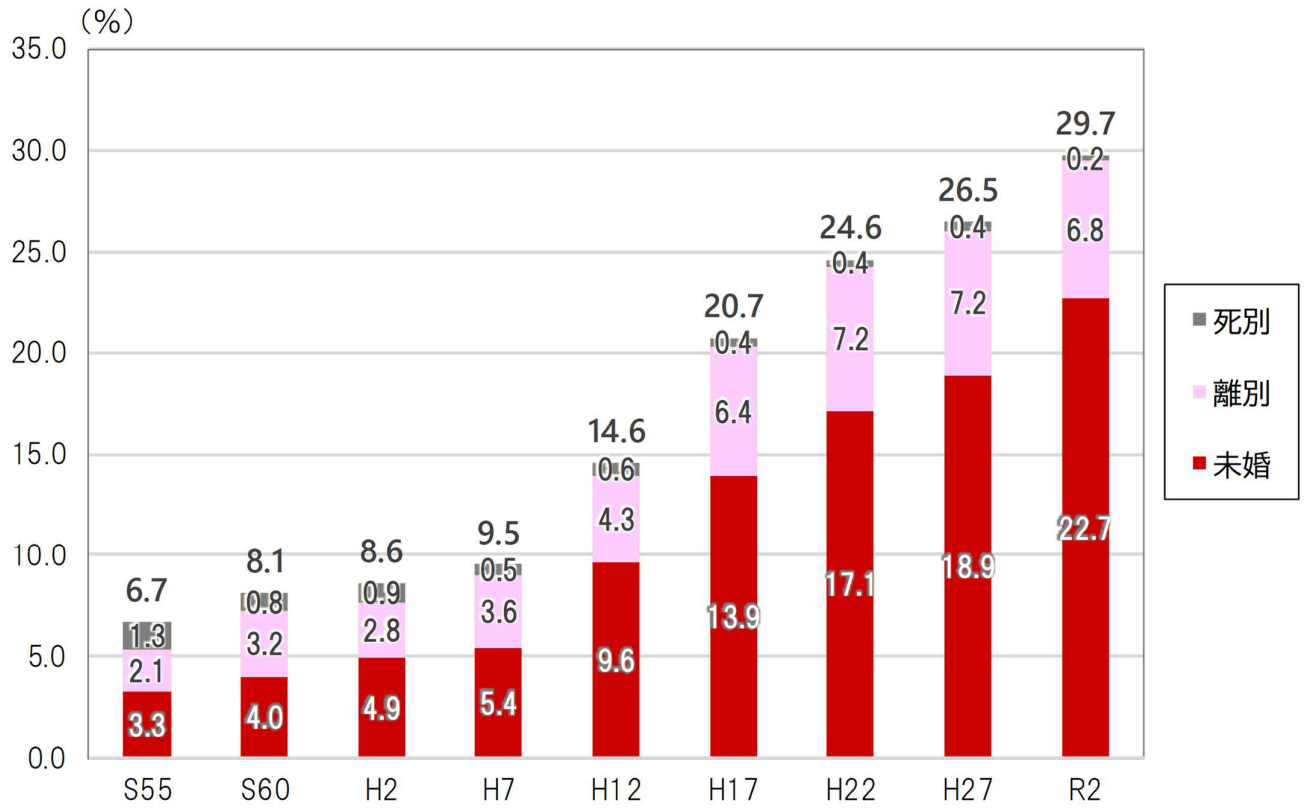
平成10年頃から婚姻件数は減少傾向で推移

2-6 30代後半の独身割合の推移



出所)総務省「国勢調査」
備考)H27以降は不詳補完値

30代後半における独身割合は増加傾向で推移
出生率の低下との相関関係あり



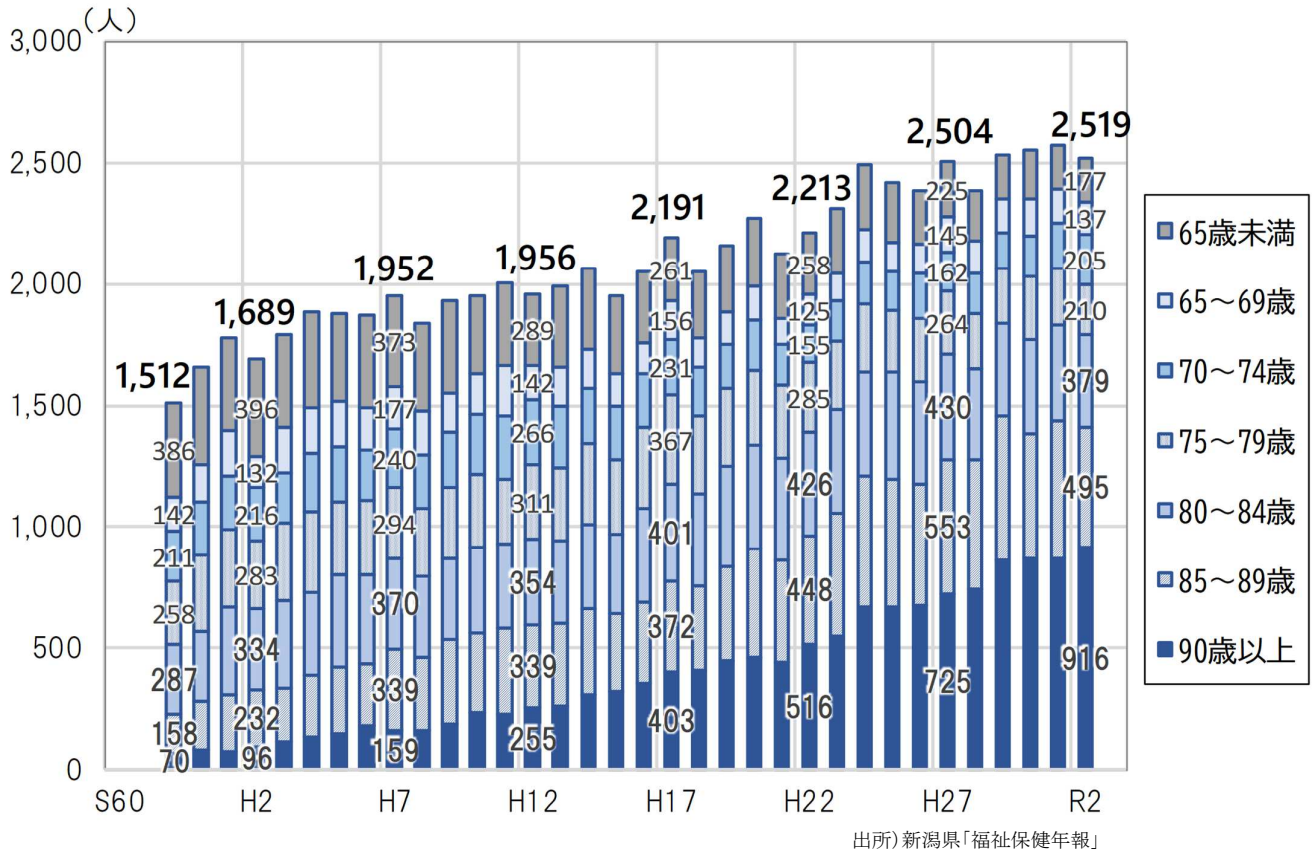
出所) 総務省「国勢調査」

未婚に加えて離別も以前より増加

3

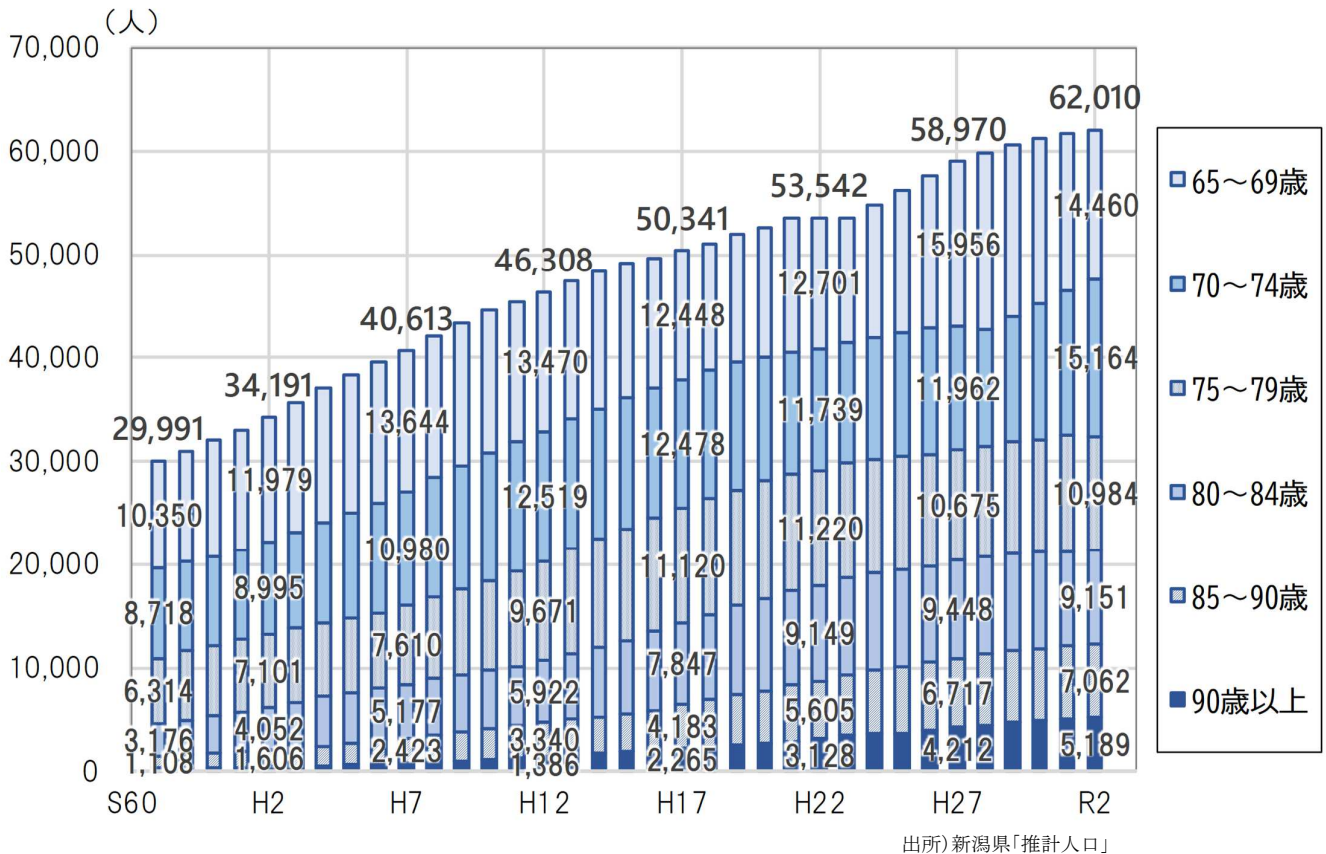
死亡

3-1 上越市の年齢別死亡数の推移

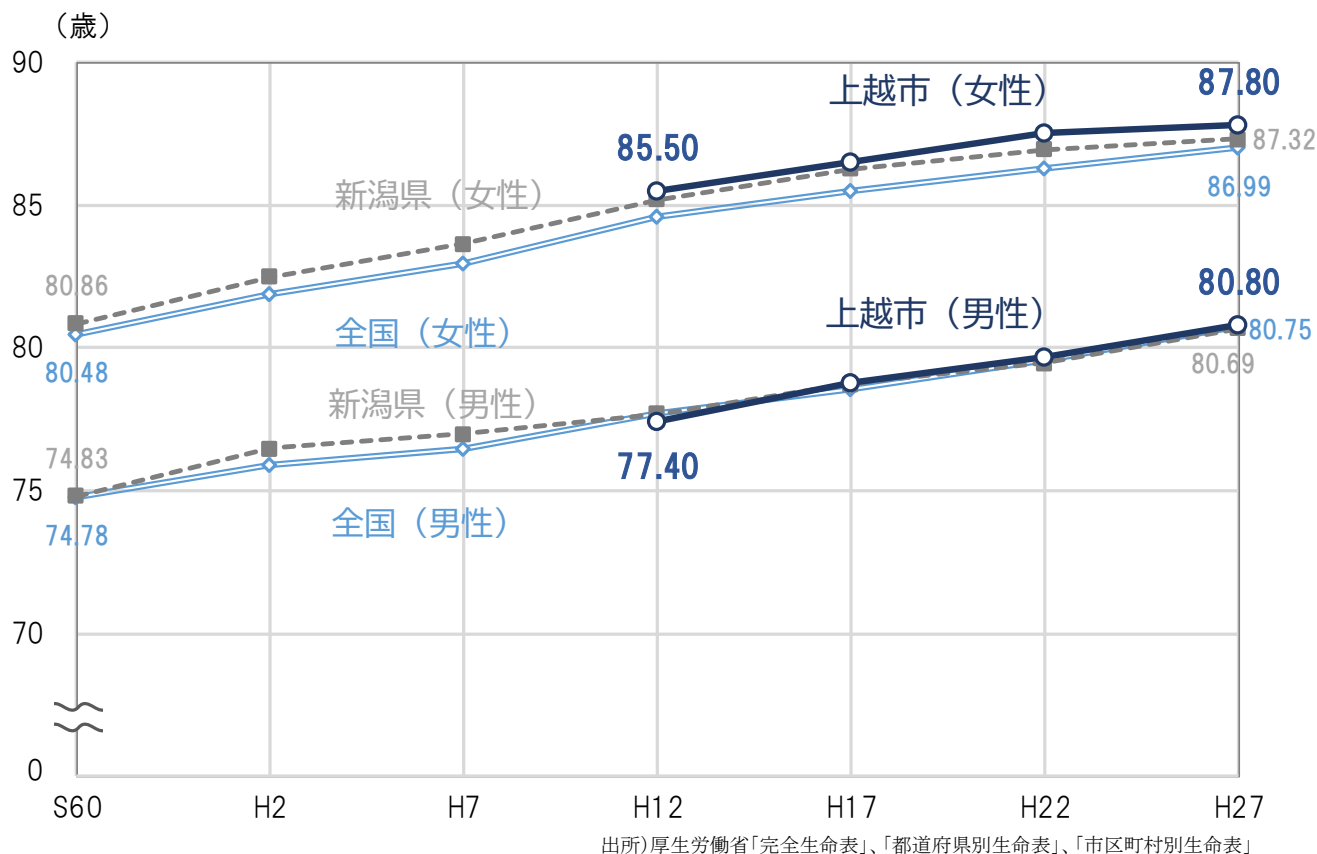


死亡数は増加傾向で推移
高齢になるほど死亡数が増加している(高齢化によるもの)

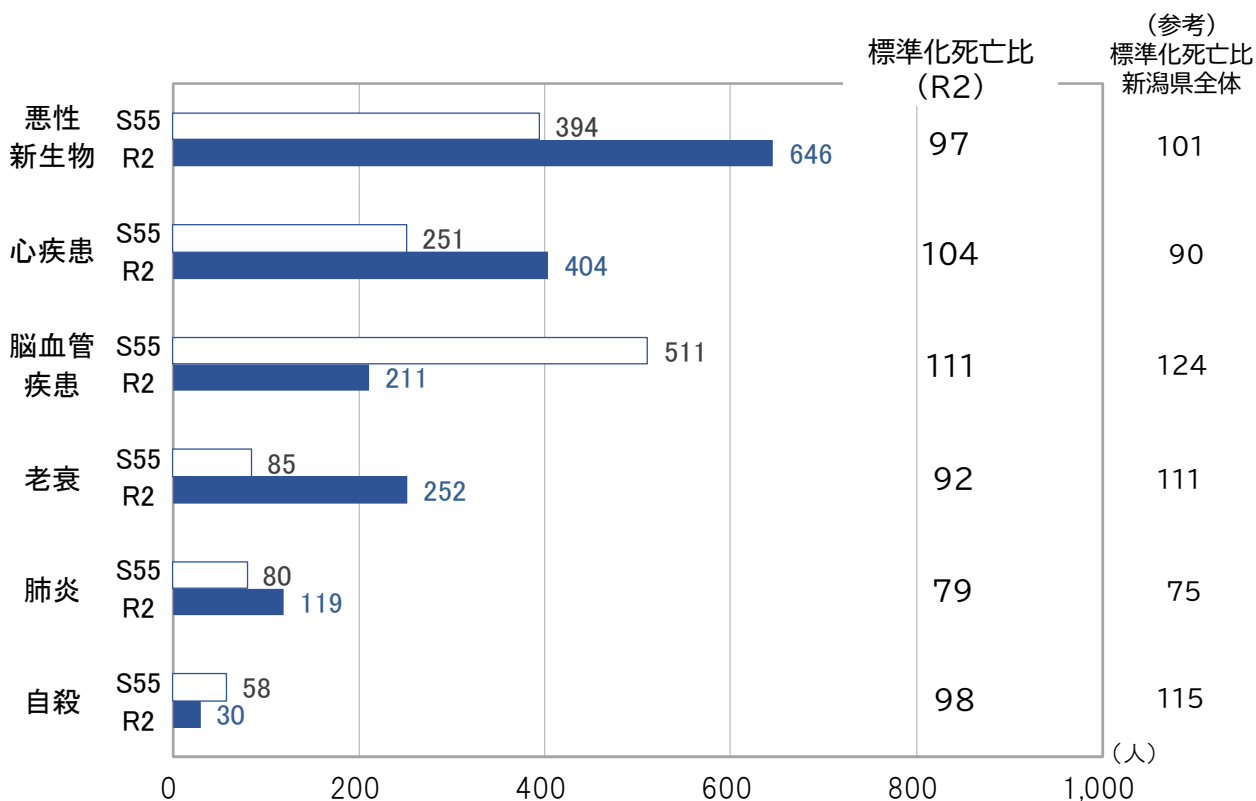
3-2 上越市の高齢者人口の推移



団塊世代の高齢化に加え、平均寿命の延伸により、
特に80歳以上が大きく増加



男女ともに平均寿命は上昇傾向
 男性は全国と同程度、女性は全国よりやや高い



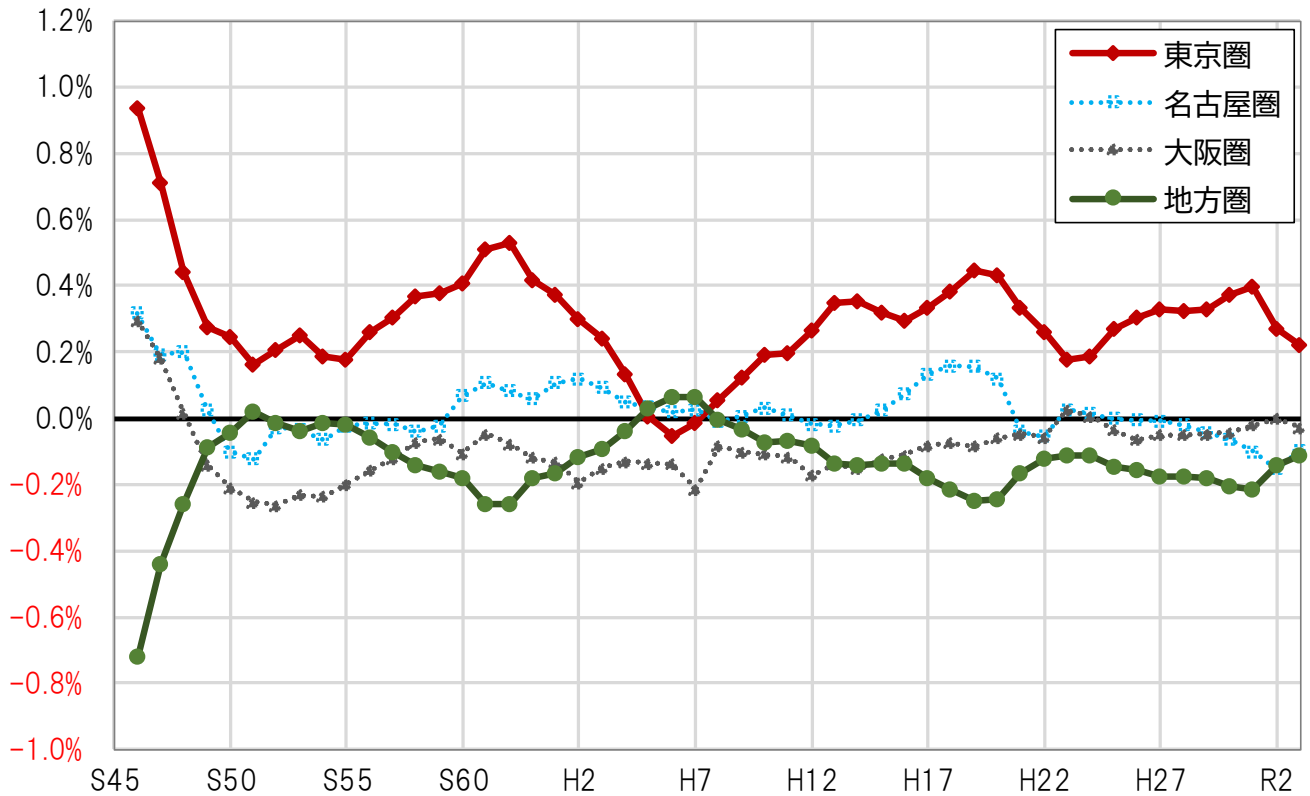
出所)新潟県「福祉保健年報」、厚生労働省「人口動態調査」
 (備考)標準化死亡比は全国を100とし、100より大きいと全国平均より死亡率が高く、100より小さいと全国平均より死亡率が低いことを示す

がん(悪性新生物)や心疾患の死亡数は増加しているが全国と同水準
 脳血管疾患による死亡数は半減しているが、全国よりも死亡率が高い

4

転入・転出

4-1 全国都市圏別の人口増減率の推移

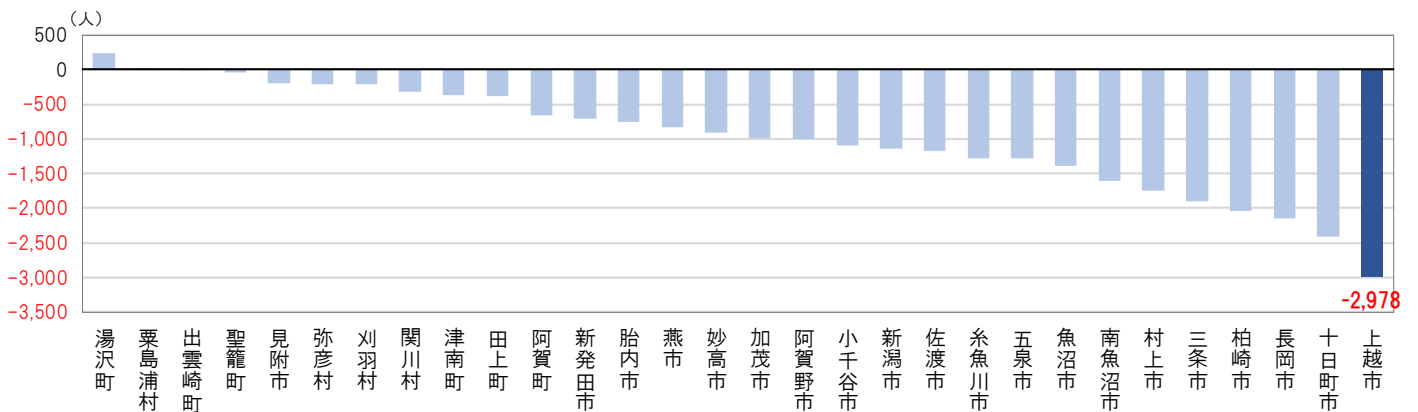


出所) 総務省「住民基本台帳移動報告」

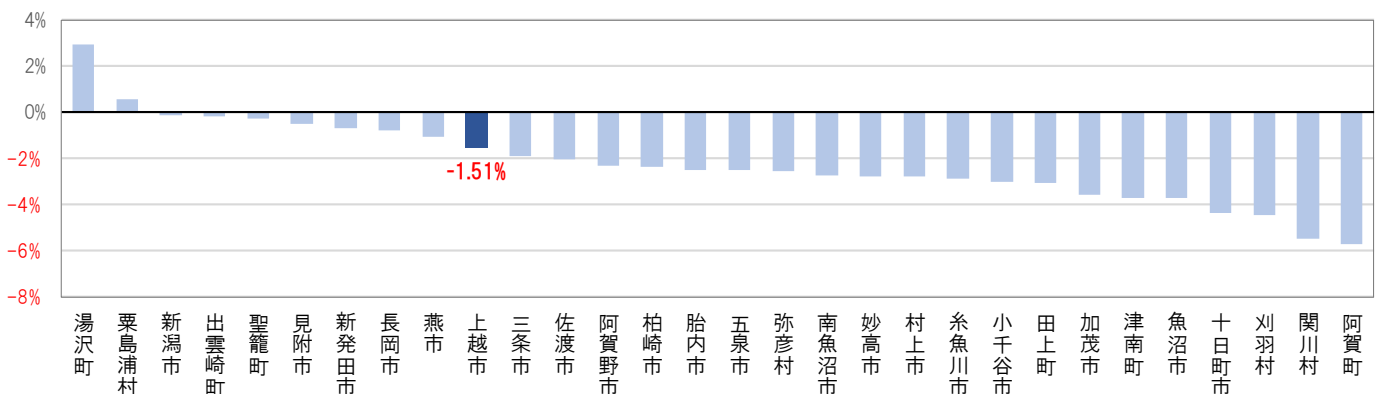
基本的には東京圏への人口集中が継続
地方圏(上越市を含む)は東京圏と逆の動き

4-2 県内自治体の転入超過の状況(H28-R2)

【転入超過数 (実数)】

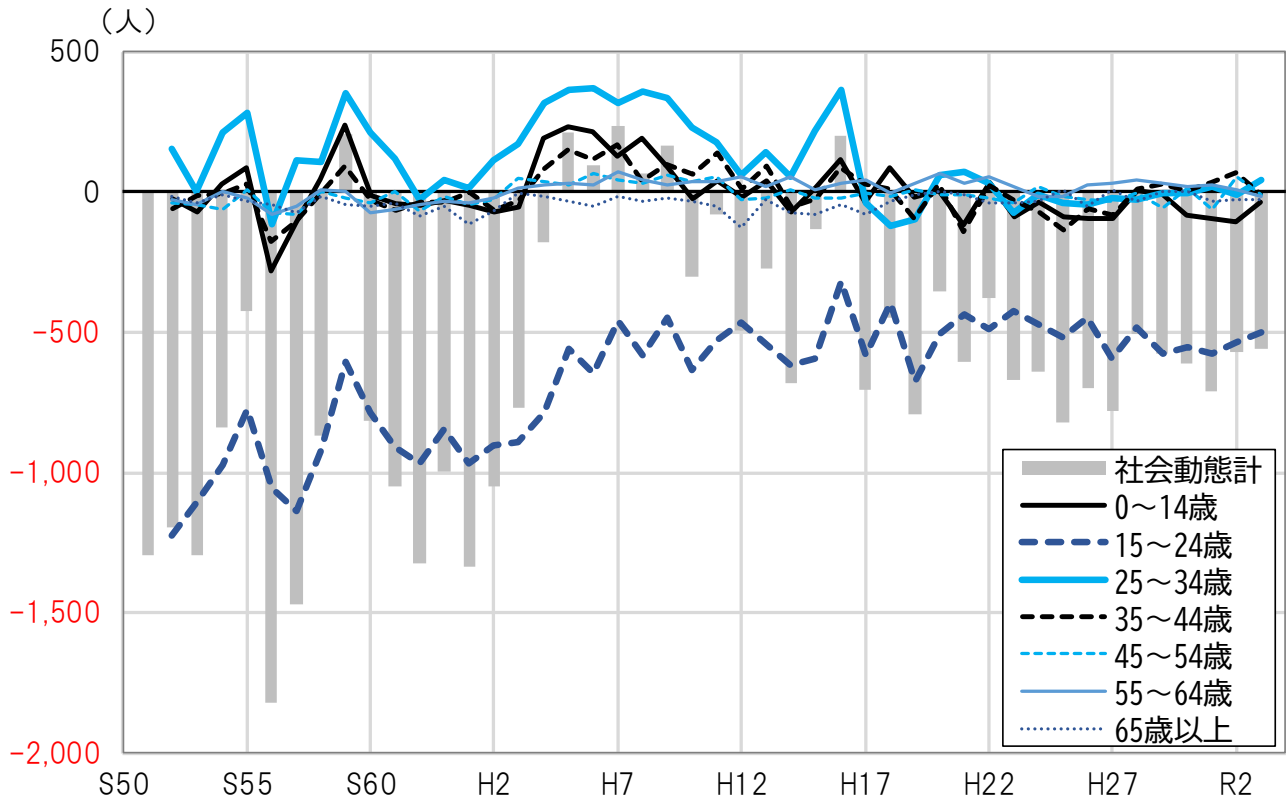


【転入超過率 (割合)】



県内ではほとんどの自治体が転出超過

出所) 新潟県「人口移動調査」



出所)新潟県「人口移動調査」

15～24歳で転出超過が継続

4-4 上越市の性別・年齢別の転入出の動き

【男性】

	H23-H27		H28-R2	
	(転入-転出)		転入	転出
0-14歳	▲ 191	▲ 184	↘ 1,123	↘ 1,307
15-24歳	▲ 951	▲ 993	↗ 3,381	↗ 4,374
25-34歳	▲ 225	▲ 90	3,659	↘ 3,749
35-44歳	▲ 208	23	1,930	↘ 1,907
45-54歳	▲ 34	5	↗ 1,129	↗ 1,124
55-64歳	29	75	586	511
65歳以上	▲ 18	39	↗ 474	435
合計	▲ 1,598	▲ 1,125	↗ 12,282	↘ 13,407

【女性】

	H23-H27		H28-R2	
	(転入-転出)		転入	転出
0-14歳	▲ 211	▲ 101	↘ 1,133	↘ 1,234
15-24歳	▲ 1,490	▲ 1,749	↗ 1,993	↗ 3,742
25-34歳	14	27	↘ 3,052	↘ 3,025
35-44歳	▲ 174	119	1,450	↘ 1,331
45-54歳	▲ 60	▲ 53	566	619
55-64歳	18	38	337	299
65歳以上	▲ 90	▲ 134	533	667
合計	▲ 1,993	▲ 1,853	↘ 9,064	↘ 10,917

【参考】東京都の社会動態

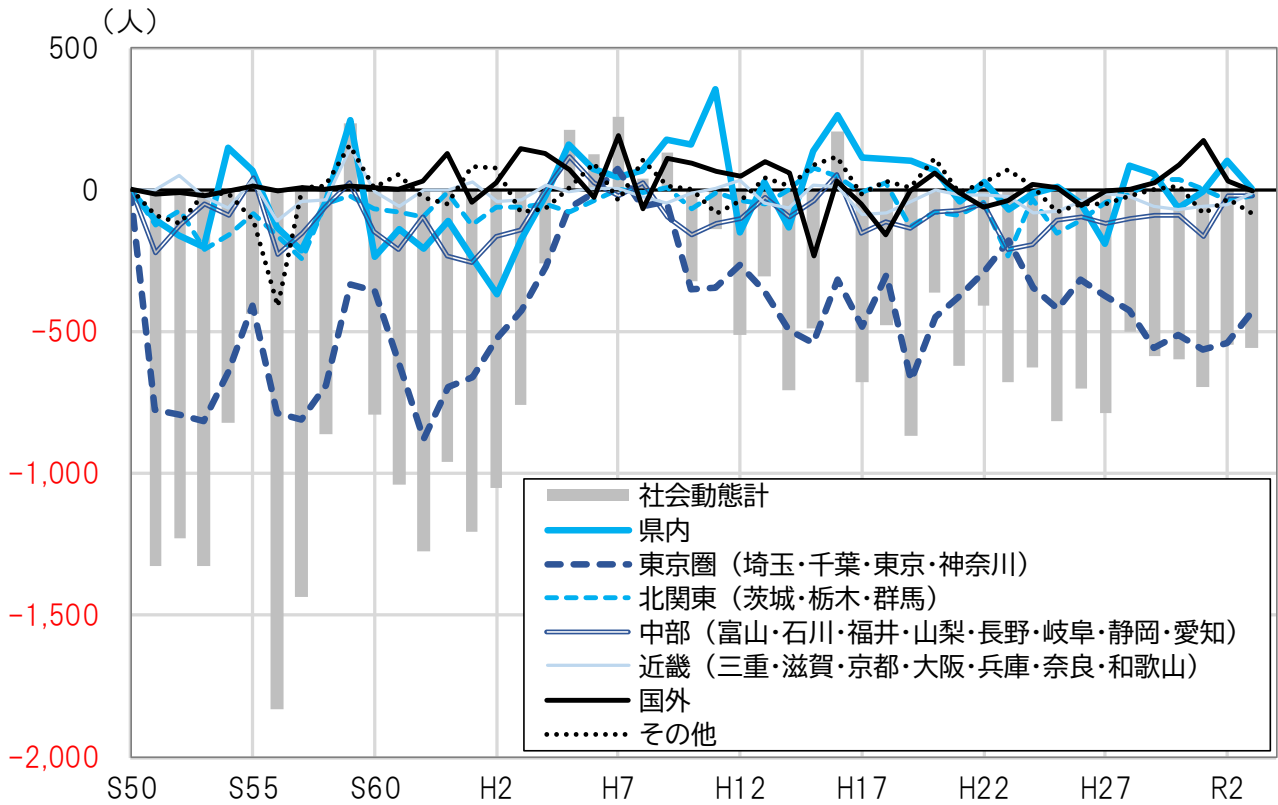
	H28-R2		
	(転入-転出)	転入	転出
0-14歳	▲ 12,129	75,499	87,628
15-24歳	155,282	362,368	207,086
25-34歳	44,593	419,659	375,066
35-44歳	▲ 11,982	167,728	179,710
45-54歳	▲ 4,303	92,190	96,493
55-64歳	▲ 12,536	40,794	53,330
65歳以上	▲ 20,059	30,731	50,790
合計	138,866	1,188,969	1,050,103

	H28-R2		
	(転入-転出)	転入	転出
0-14歳	▲ 9,419	73,086	82,505
15-24歳	183,923	351,406	167,483
25-34歳	48,437	376,495	328,058
35-44歳	▲ 270	133,347	133,617
45-54歳	2,611	63,566	60,955
55-64歳	▲ 8,081	27,901	35,982
65歳以上	▲ 14,665	44,837	59,502
合計	202,536	1,070,638	868,102

出所) (上越市)住民基本台帳をもとに上越市創造行政研究所作成、(東京都)総務省「住民基本台帳移動報告」
備考)上越市と東京都の数値は集計期間等一部条件が異なる

若年女性に大幅な転出超過

4-5 上越市の地域別社会動態の推移



出所)新潟県「人口移動調査」

東京圏に対する転出超過が継続
近年は拡大傾向だったが、R2以降はやや縮小

4-6 上越市の地域別の転入出の動き(H28-R2)

転入元・転出先	転入数 (+)	転出数 (-)	増減数 (社会動態)
県内	9,062	8,890	172
糸魚川市	923	518	405
妙高市	1,673	1,317	356
十日町・魚沼圏	782	512	270
柏崎・長岡圏	1,804	1,966	△ 162
新潟圏	2,881	3,577	△ 696
その他県内	999	1,000	△ 1
県外	12,115	15,210	△ 3,095
東北・北海道	1,080	1,161	△ 81
北関東 (群馬・栃木・茨城)	1,633	1,611	22
東京圏 (一都三県)	4,154	6,752	△ 2,598
長野県	971	1,193	△ 222
北陸	1,053	1,144	△ 91
中部 (長野県を除く)	814	970	△ 156
近畿	678	941	△ 263
その他国内	581	612	△ 31
国外	1,151	826	325
その他	138	193	△ 55
合計	21,315	24,293	△ 2,978

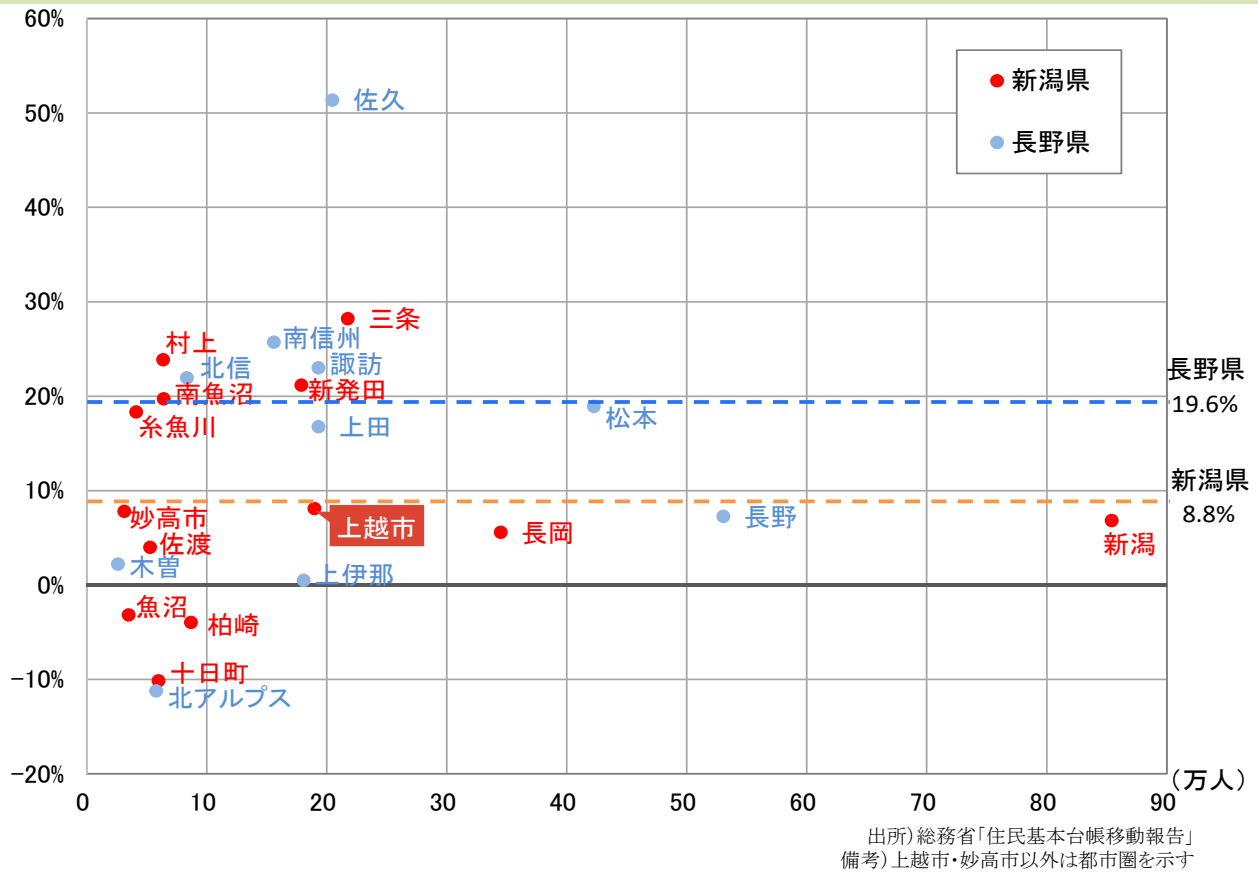
周辺市町村からは
転入超過

新潟市を中心とする圏域
や東京圏への転出超過が
多い

国外からの流入増は
近年の動き

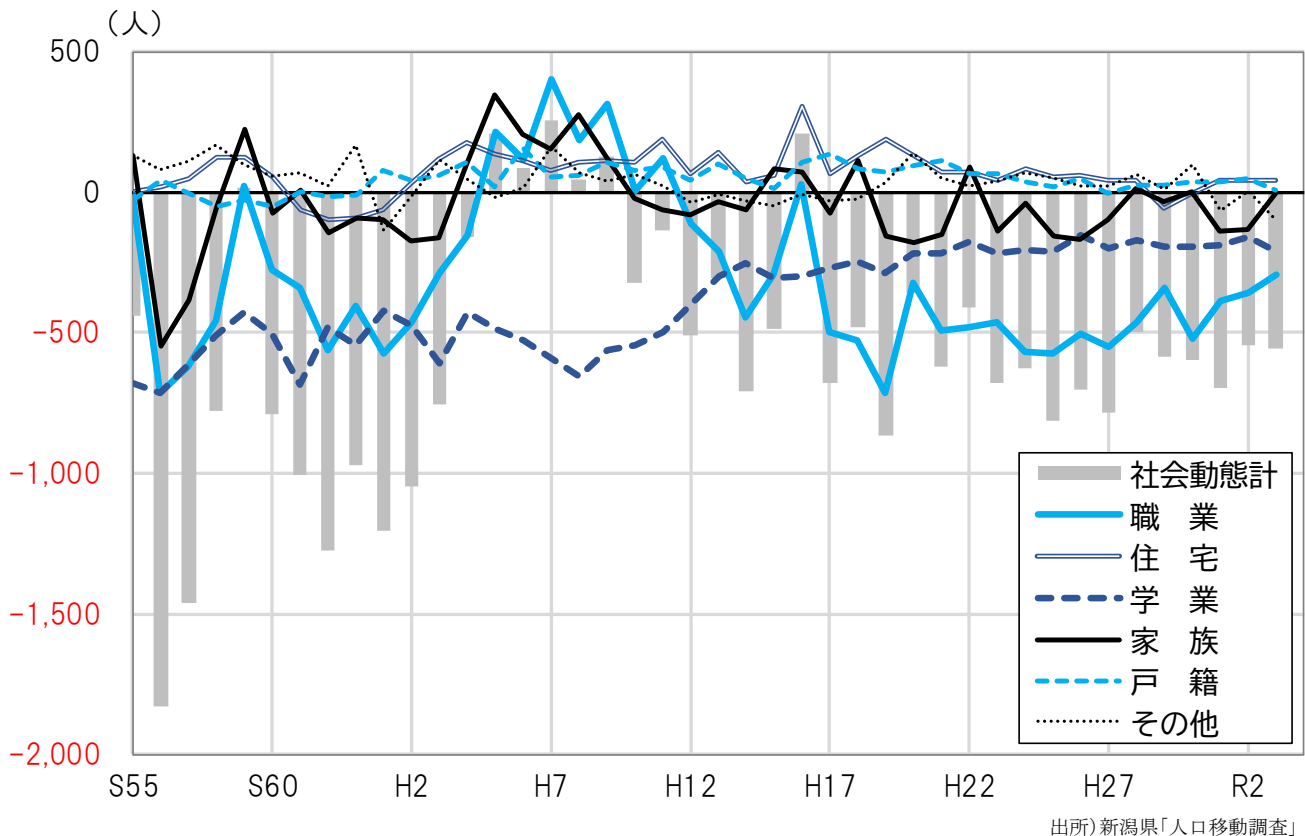
出所)新潟県「人口移動調査」

4-7 東京都からの転入数の増減率(R1→R3)



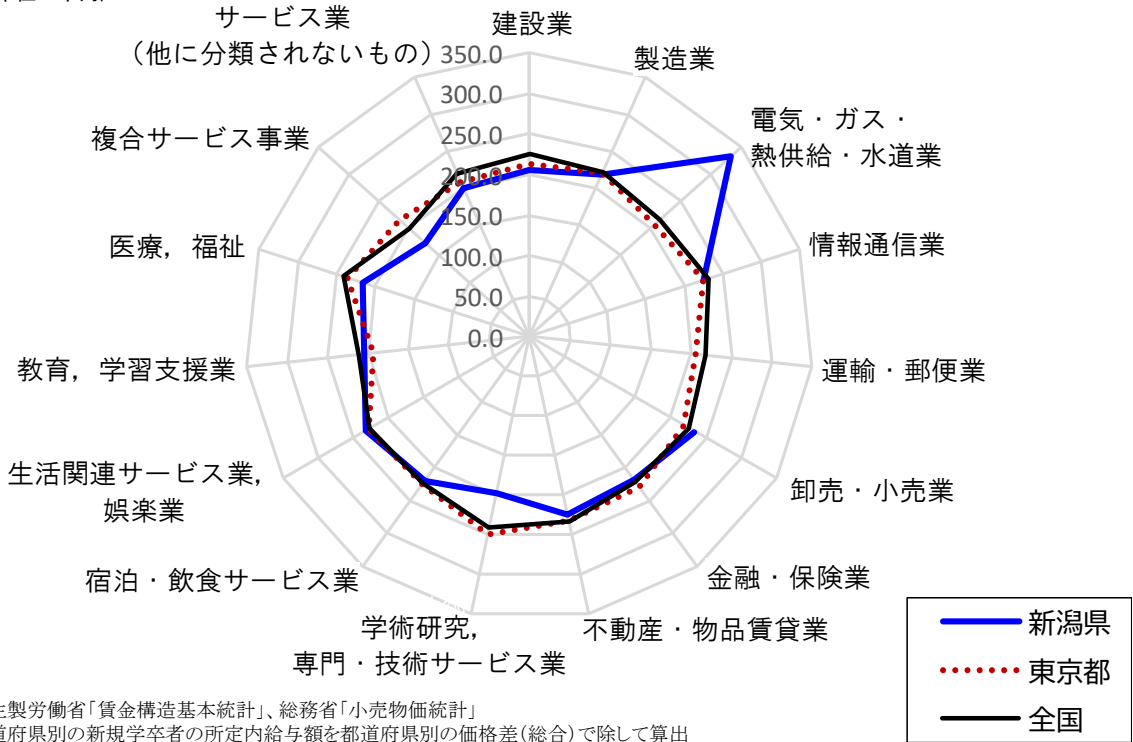
コロナ禍以降、東京からの転入は長野・新潟の一部で増加傾向
ただし、上越市での影響は今のところ軽微

4-8 上越市の理由別社会動態の推移



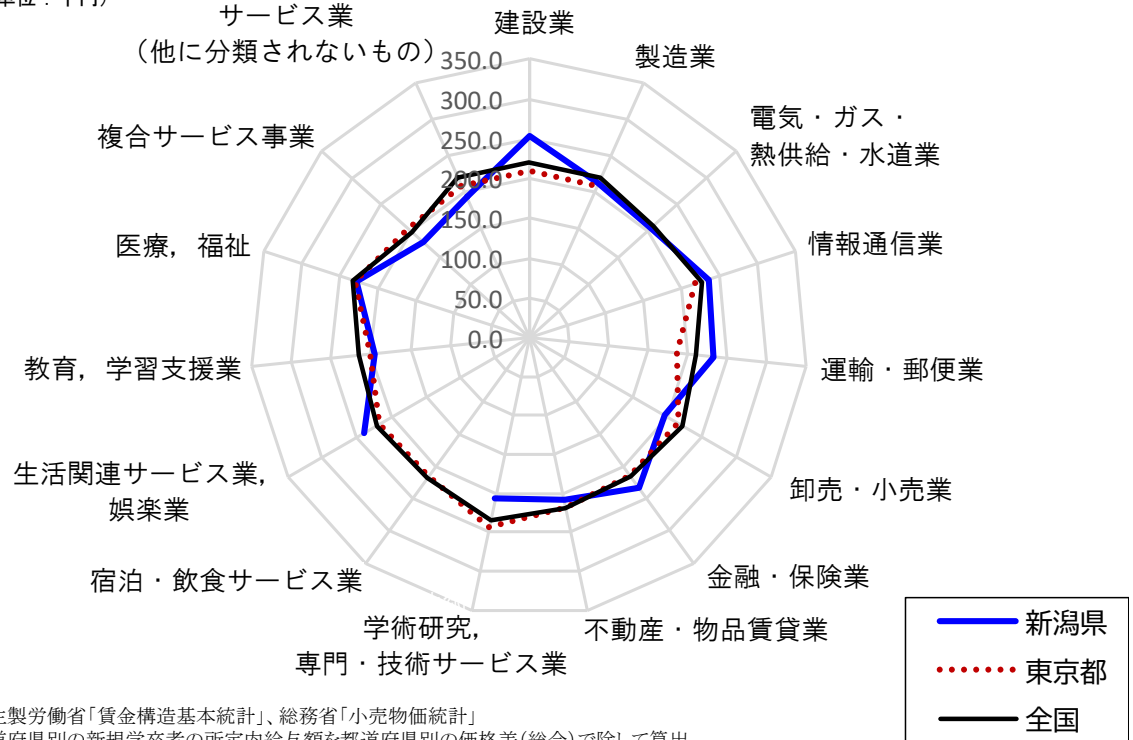
職業を理由とした転出超過の影響が最も大きい

【男性】(単位:千円)



「学術研究、専門・技術サービス業」や「複合サービス事業」の水準は東京より低いが、全体的には大きな賃金格差は見られない

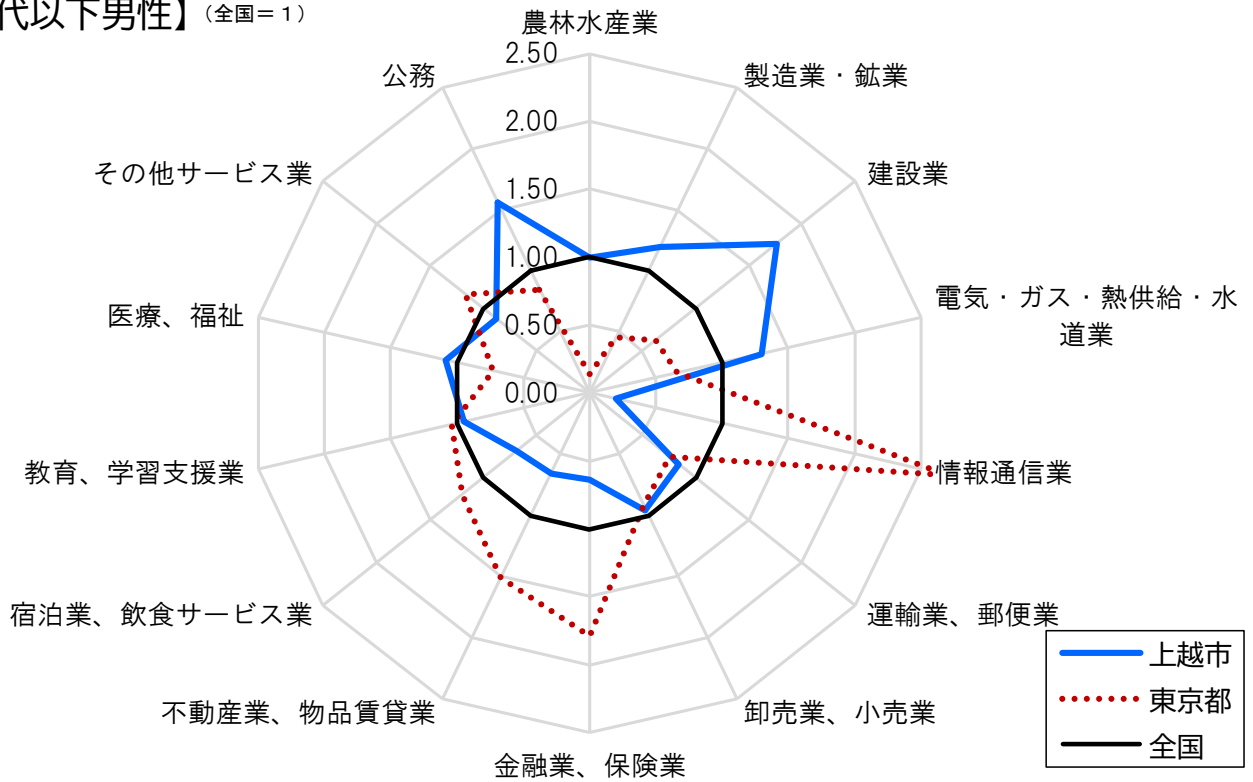
【女性】(単位:千円)



新潟県の「電気・ガス・熱供給・水道業」の水準は男性と異なるが男性同様、東京との大きな差は見られない

4-11 産業別就業者割合(H27 30代以下男性)

【30代以下男性】(全国=1)

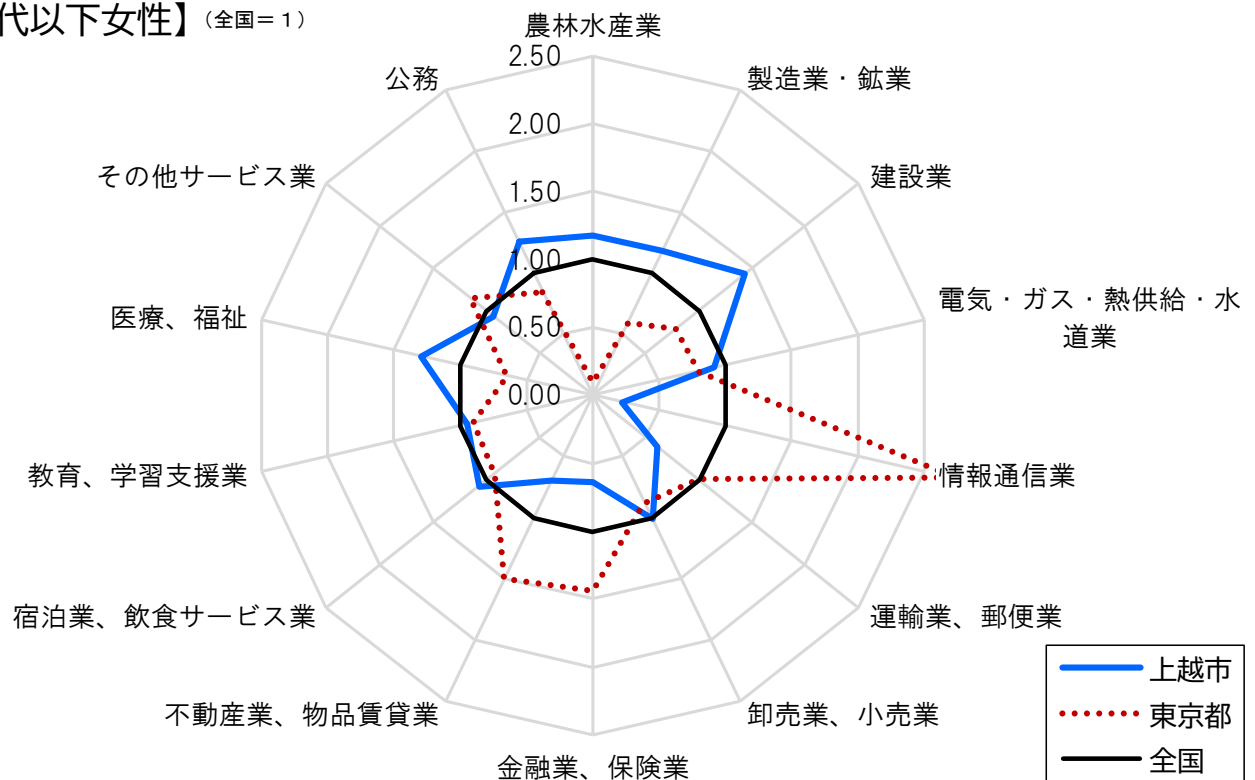


出所)総務省「国勢調査」

「情報通信業」や「金融業、保険業」「不動産業、物品賃貸業」に従事している人が全国・東京に比べて少ない

4-12 産業別就業者割合(H27 30代以下女性)

【30代以下女性】(全国=1)



出所)総務省「国勢調査」

男性同様、「情報通信業」や「金融業、保険業」「不動産業、物品賃貸業」に従事している人が全国・東京に比べて少ない

ありたい姿の実現に向けた「まちづくりに込める想い」（基本理念）の整理

◇ 各分野の2040年のありたい姿

参考資料4

No.	ありたい姿（キーワード）
6	あらゆる災害への備えが整っている
7	誰もが災害時に自分がとるべき行動を理解し、相互に共有している
8	犯罪や交通事故が少なく、まちの安全安心が守られている
11	健康寿命が延伸し、自立した暮らしを送っている
12	必要なときに必要な医療を受ける体制が整っている
27	機能的・安定的な都市基盤が整い、市外・県外とつながっている
28	車を運転できなくても安心して生活できる環境が整っている
29	空き地や空家等の利活用が促進され、地域コミュニティが維持されている
31	持続可能な行財政運営が行われている
1	自分らしい生き方ができている
2	多様性が認められ、誰一人取り残されない社会となっている
13	高齢者や障害者がいきいきと暮らせる居場所を持ち、活躍している
3	市民一人一人が地域に愛着や誇りを感じている
4	若者が戻り、移住する人が増えている
5	あらゆる主体が「自分事」としてまちづくり・地域づくりに関わっている
22	中山間地域の暮らしと文化が継承され、多くの人に認められている
24	学校や地域が一体となって、子どもたちの成長を支える環境が整っている
9	良好な生活環境や豊かな自然環境が維持されている
10	市民・企業の主体的な行動により、カーボンニュートラルが大きく進んでいる
16	地域経済の好循環が生まれ、まちに活気が生まれている
17	市内企業が全国、世界で活躍している
18	多くの人を訪れ、まちに賑わいがあふれている
21	農林水産業の魅力と価値が高まり、生業として確立している
26	地域の伝統文化が守られ、地域のかけがえのない魅力となっている
30	憩い・集い・くつろげる質の高い空間が形成されている
14	このまちで子育てしたいと思う人が増えている
15	子どもが健やかに育っている
19	多様な人材が集う、魅力ある雇用の場が創出されている
20	希望するワーク・ライフ・バランスに応じた働き方が定着している
23	子どもたちが自分の未来を描き、主体的に行動できる力が身についている
25	多様な学び方が選択できる教育環境が整っている

◇ 検討の視点

ありたい姿の共通事項	
<p>① 安心な暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会や環境の大きな変化に対しても、柔軟かつしなやかに対応することができ、人や地域のつながり・支え合いの下で、安心して暮らすことができるまちとなっている 	<p>④ 魅力と賑わい・交流が生まれる</p> <ul style="list-style-type: none"> 奥深い歴史と自然が共存する当市ならではの魅力を磨き、その価値を高め、さらには広く認知される中で、新たな交流・賑わいが生まれるまちとなっている
<p>② 多様な暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民一人一人が、その年齢や性別、個性や価値観にかかわらず、居場所と出番があり、生きがいを感じながら、自分らしく働き、暮らし、活躍できるまちとなっている 	<p>⑤ 夢や希望、未来を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> 若者をはじめ、市民一人一人が学び、挑戦し、活躍できる環境が整い、未来に向かって希望や夢を抱き、実現できるまちとなっている
<p>③ つながり、共に創る</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政、地域、事業者、団体、個人など、多様な主体が手を取り合いながら、「自分事」として市民生活やまちの様々な課題の解決に取り組み、新たな価値を共に生み出すまちとなっている 	

上越らしさ (私たちの「あたりまえ」の中にある大切にしたいまちの価値)
<p>自然との共生</p> <ul style="list-style-type: none"> 雪国だからこそ感じられる自然への畏怖の念、四季折々の美しい自然とともに生きる喜び。豊かな自然と風土の中で育まれた恵みをいかした食。季節に寄り添った暮らしを、あまた享受している
<p>先人が紡いできた歴史・文化</p> <ul style="list-style-type: none"> 上杉謙信公の居城であった春日山をはじめとした当市ならではの奥深い歴史や文化、その精神性が連綿と受け継がれている
<p>共助の精神</p> <ul style="list-style-type: none"> 雁木に象徴される雪国の暮らしや古から当地の生業を支えてきた農業を通じて、思いやりや支え合い、助け合いの精神が宿っている

◇ まちづくりに込める想い

基本理念
<p>上越市ならではの 快適で幸せな暮らし</p> <p>世代を超えて、全ての市民が、誰一人取り残されることなく、安心感や幸福感、満足感に包まれながら、自分らしく健やかに暮らし、のびやかに学ぶことができる当市ならではの快適で幸せな暮らしを実現する</p>

「将来都市像（案）」について

まちづくりに込める想い（基本理念）

当市を取り巻く社会経済の変化などの将来予測を踏まえつつ、行政職員における第6次総合計画の評価検証の結果とともに、市民の声アンケートやグループインタビュー、まちづくり意見交換会等を通じて聴取した市民の意見を受け止め、2040年の「ありたい姿」をキーワードで整理した上で、その根底にある想いを5つの共通事項として取りまとめました。

さらに、将来にわたり大切にしたい「上越らしさ」を重ね合わせ、まちづくりに込める想い（基本理念）を、次のとおり導き出しました。

上越市ならではの 快適で幸せな暮らし

【説明】

全国有数の豪雪地帯である当市では、日々の暮らしのすぐそばにある自然に畏怖の念を抱く一方、四季折々の美しさに生きる喜びを感じ、その中で育まれた恵みをいかした食を堪能するなど、季節に寄り添った当地ならではの暮らしを、あまた享受してきました。

また、先人たちの努力の積み重ねにより、上杉謙信公の居城であった春日山をはじめとした当地ならではの奥深い歴史や文化、その精神性が、連綿と受け継がれるとともに、私たちの中には、雁木に象徴される雪国の暮らしや古から当地の生業を支えてきた農業を通じて、思いやりや支え合い、助け合いの精神が培われ、今もなお宿っています。

こうした「上越らしさ」といえる、多彩なまちの魅力と人々に宿る他者を思う心は、この地に住む人々にとって、普遍的であり大切なものとなっています。

一方、現代社会に目を向けますと、急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、核家族化や地域コミュニティの希薄化が進み、加えて、社会経済環境の急激な変化とともに価値観・ライフスタイルも多様化しています。そうした中、例えば、高度情報化の進展や様々なサービスの外部化の拡大は、生活の利便性を飛躍的に向上させ、自由な暮らしをもたらしましたが、近年のコロナ禍では、他者とのかわりの少なさが孤独感や孤立感につながるなど、メリットが一瞬にして潜在的なデメリットに転じてしまうといった想定外を前提として、将来展望を見出ししていかななくてはならない、難しい時代となっています。

こうした先行きの見通しが困難な時代だからこそ、上越ならではの普遍的な価値を大切にしながら、「Well-being」(※)の考え方にあるような、市民の幸福感を高めること、同時に、だれもが活躍できるような環境をつくっていくことが、まちの成長の礎となるものと考えます。成熟社会にあっても、新たな潮流を取り込み、先進性、先駆性を備えた、人を中心とした快適なまちの仕組みと形を創っていくことが大切と考えます。

※「Well-being」（ウェルビーイング）とは、身体的、心理的、社会的に良好で、すべてが満たされた状態にあること。健康、幸福感、つながりが良好な状態にあることを意味しています。

そこで、社会・文化・自然の豊かさや人情味あふれる気質・風土を将来にわたって引き継ぎながら、全ての市民が他者との結びつきを実感し、誰一人取り残されることなく、安心感や幸福感、満足感に包まれながら、自分らしく健やかに暮らし、のびやかに学び、人とまちの成長につなげていく、「上越市ならではの快適で幸せな暮らし」の実現を基本理念として決めました。

将来都市像

人口減少等の変化が進む成熟社会の中で、「上越市ならではの快適で幸せな暮らし」を実現していくためには、市民の暮らしと成長を支える確かな基盤（仕組みと形）を確立していくことが必要と考えます。

「上越らしさ」といえる、まちの多彩な魅力や人々の共助の精神を身近に感じられる中で、誰もが自らの生き方、暮らし方、働き方に安心感や満足感を実感できるよう、市民の暮らしの質を着実に向上させていかなければなりません。

あわせて、若者や女性、高齢者、外国人といった多様な市民一人一人が、夢や希望に向けて、学び、挑戦し、活躍できる環境を、みなで手を携え、共に一つ一つ創っていくことが大切になります。

市民・事業者・団体・地域など、これからのまちづくりに関わる全ての方々が、まちの未来に思いを抱き、共通の目標の下で行動するべく、第7次総合計画の最終年度となる8年後の2030年に上越市が目指す将来都市像を次のとおり掲げます。

暮らしやすく

希望あふれるまち

～○○○○○○○○○○～

※キャッチフレーズを検討中。

「暮らしやすく」とは・・・

各種インフラ、産業、教育、医療、福祉、環境、文化の全てにおいて、社会環境の変化に、柔軟かつしなやかに対応し、誰一人取り残されることなく、自分らしい暮らしができるよう、生活の質の向上を図り、安心感や満足度をより高めていきます。

「希望あふれる」とは・・・

地域の魅力や資源、産業や人材などまちの力を市民や地域が一丸となって高め、いかしていく中で、地域に対する愛着や誇りが生まれ、市民一人一人が夢や希望を持って、暮らし、そして、次代を担う子どもや若者が帰ってきたくなるようなまちを目指します。